

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 サワラ

学名 *Scomberomorus niphonius*

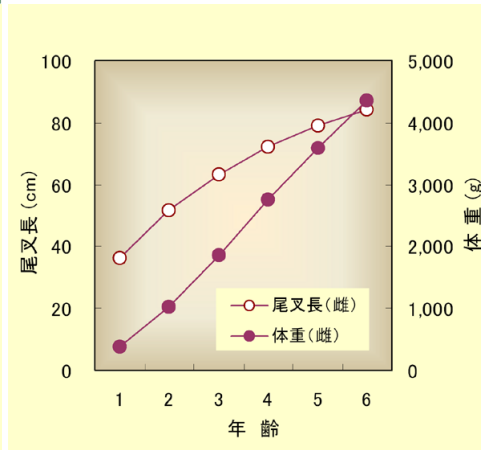
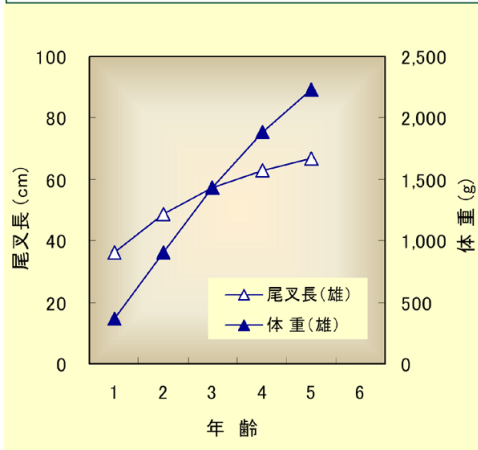
系群名 東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 約6歳
成熟開始年齢: 1歳(一部)、2歳(大部分)
産卵期・産卵場: 3～6月に産卵。産卵場は東シナ海の中央部～中国沿岸
索餌期・索餌場: 夏～秋季、黄海・渤海、日本海など
食性: 稚魚期以降に魚食性
捕食者: 不明

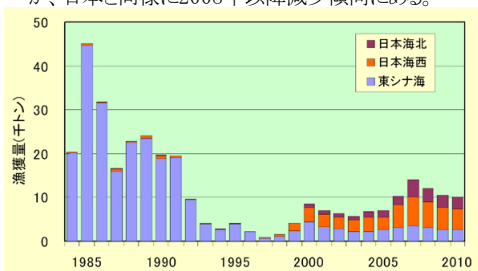


漁業の特徴

1990年代半ばまでは、サワラ東シナ海系群の日本の漁獲量の大半は、東シナ海の大中型まき網によるものであった。しかし2000年以降では、本系群の漁獲量全体に占める東シナ海の大中型まき網による漁獲量の割合は低下し、日本海の定置網による漁獲量の割合が増加している。最近5年間(2006～2010年)の日本海における漁獲量は本系群全体の漁獲量の70%以上を占める。

漁獲の動向

日本の漁獲量は1984～1991年は2万トン前後で推移していたが、1992年以降に急減して、1997年には822トンまで落ち込んだ。日本海での漁獲量の増加に伴い1998年以降は増加し、2007年は近年での最高値(1.4万トン)を示した。2008年以降は減少傾向にあり、2010年は1万トンとなった。韓国の漁獲量も2010年は3.6万トンと高い水準にあるが、日本と同様に2008年以降減少傾向にある。



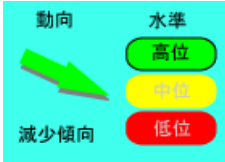
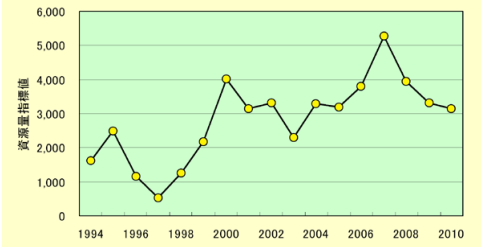
資源評価法

日本の漁獲量、東シナ海で操業する日本の大・中型まき網のCPUE(漁獲量/有効努力量)、および韓国の漁獲量の相乗平均値を、資源量の増減を示す資源量指標値と考え、これらの情報に基づいて資源評価を行った。大・中型まき網により九州主要港に水揚げされたサワラの体重別漁獲尾数、日本海の定置網により漁獲されたサワラの尾叉長組成は得られたが、コホート解析による資源量推定は行わず、これらの情報は参考にとどめた。

資源状態

2010年におけるサワラ東シナ海系群の資源水準は、過去27年間(1984～2010年)における日本と韓国の合計漁獲量の最少および最大値の間を三等分した基準値に基づいて、高位と判断した。また、最近5年間(2006～2010年)における資源量指標値は、2007年に高い値を示したものの、2008年以降減少しているため、資源動向は減少と判断し

た。資源水準は高位と判断されたが、東シナ海における大中型まき網および日本海における定置網の漁獲物の大半は、1歳以下の若齢魚である。



管理方策

資源水準は高位にあるが資源動向は減少を示していることから、東シナ海の大中型まき網および日本海の定置網における漁獲物の主体が若齢魚に集中していることから、資源量指標値の変動傾向を注視しつつ、現状の漁獲量を若干抑えることが望ましい。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	85百トン	0.85C2010	—	—
ABCtarget	68百トン	0.8・0.85C2010	—	—

- 日本漁業に対する値

資源評価のまとめ

- 日本の漁獲量、大中型まき網のCPUEおよび韓国の漁獲量の相乗平均値を資源量指標値として、これらの情報に基づいて資源評価を行った
- 資源水準・動向は高位・減少傾向
- 日本海における漁獲量の割合が増加している
- 漁獲の主体は1歳以下の若齢魚

管理方策のまとめ

- 資源動向は減少を示しているため、資源量指標値の変動傾向を注視しつつ、現状の漁獲量を若干抑えることが望ましい
- 東シナ海および日本海における資源状態の正確な把握には、関係国間の協力が必要である
- 2歳魚の大部分は成熟するが、漁獲の主体は0歳と1歳であるため、若齢魚の保護も考慮すべきである

執筆者: 高橋素光・塚本洋一・由上龍嗣

資源評価は毎年更新されます。